

平成23年9月

# 安部由紀 学位論文審査要旨

主 査 岸 本 拓 治  
副主査 西 村 正 子  
同 吉 岡 伸 一

## 主論文

日中の看護師の卒後継続教育に対する意識とニーズの比較

(著者：安部由紀、西村正子、吉岡伸一)

平成23年 米子医学雑誌 62巻 111頁～127頁

# 学 位 論 文 要 旨

## 日中の看護師の卒後継続教育に対する意識とニーズの比較

看護を含む医療職は、めまぐるしく変化する医療の中で常に情報のアンテナを張りめぐらせ、学習を続け、対応していく必要性が強く求められる。日本では、各施設での院内教育がキャリアラダーを基に年々高度化し、確実な知識の定着を目標に推進されている。中国では、キャリアラダーに加え、看護師としての質の保持を目的に免許の更新制を導入している。本研究は、異なる卒後継続教育体制をとる日中看護師を対象に継続教育に対する考え方やニーズについて比較検討した。

### 方 法

対象は、卒後継続教育体制のある医療機関に勤務する日本および中国の看護師、それぞれ270名、300名で、2008年10月～2009年4月に調査を行った。坂柳が作成した「成人キャリア成熟尺度」、三浦と舟島が作成した「教育ニーズアセスメントツール臨床看護師用」、「学習ニーズアセスメントツール臨床看護師用」の3つの尺度を用いてキャリア成熟、教育および学習ニーズについて評価し、日本と中国の看護師について比較した。また、一般属性、職業属性、キャリア関連属性とそれぞれの尺度との関係についても検討した。

### 結 果

成人キャリア成熟の総合得点は中国が日本に比べて有意に高かった。下位尺度の「計画性」は中国が日本に比べて有意に高かったが、「自律性」は逆に日本が中国に比べて有意に高かった。「関心性」は日中間で有意差がみられなかった。国別・属性別でみると、中国では「学会参加の有無」で有意差が生じ、日本では「昇進試験の有無」、「免許更新制の賛否」に有意差が生じていた。教育ニーズの総合得点は中国の方が日本より有意に低く、日本は中得点領域で、中国は低得点領域にあった。さらに7つの下位項目の全てで、中国の方が日本に比べて有意に低かった。国別・属性別でみると、日中とも「年代」、「学会参加の有無」で有意差が生じた。中国では「子供の有無」、「論文投稿の有無」、「免許更新制の賛否」で有意差が生じ、特に「免許更新制に賛成」が「反対」より有意に低かった。日本では「職位」で有意差が生じ、病棟管理者が高く、また、「研究発表の有無」でも有意差が生じた。学習ニーズの総合得点は中国の方が日本より有意に高かった。国別・属性別でみると、中国では「論文投稿の有無」、「職位」で有意差が生じ、看護部管理者

が最も高く、日本では「育児協力者の有無」で有意差が生じ、「育児協力者なし」が「あり」より有意に高かった。

## 考 察

今回、日本と中国の看護師の職業キャリア成熟尺度の総合得点は、中国の方が高く、自己の職業生活について先を見つめて進んでいる姿勢が高いことが推測された。「関心性」については両国に差がなく、日本では看護の専門性を求める風潮、中国では国家的な昇進・昇給制度など自分の職業生活を常に意識する環境が一因と考える。「自律性」は日本の方が高かったが、両国間には自律性の概念の相違があり、単純には比較できない。「計画性」は中国の方が高かった。中国には5年ごとの免許の更新制度があり、参加が得点化されている学会や研修会に参加することにより、免許更新もスムーズとなる。日々、計画性をもって行動しなければ免許が再更新されない危険性があり、このような継続教育の環境も一因と考える。教育ニード尺度の得点は低いほど、看護師として望ましい状態を意味するが、今回、中国の方が総合得点および7つの下位尺度すべての得点が低かった。これは、中国の看護師のステップアップに対する職場の支援体制や国家的なライフイベントへの支援の充実、複雑な看護業務などが影響していると考えられる。学習ニード尺度の得点は高いほど、学習に対する要望の高さを意味するが、今回の調査では中国の方が高かった。しかし、両国の総合得点の平均は中得点領域で、大きな違いはなかった。看護師の継続教育はその国の独自性があるが、他国との比較は自国の継続教育の状態が見えてくるよい機会であり、今後、具体的な支援にどのようなことが必要か考えることが求められる。

## 結 論

日本と中国の看護師では、成人キャリア成熟、教育ニード、学習ニードが異なることが示された。免許更新制や卒後継続教育体制の違いが、日中看護師の継続教育に対する意識やニーズに影響を及ぼしている可能性が示唆された。